

広野町立広野中学校



広野町立広野小学校

広野町教育環境グランドデザイン 報告書編



広野町立広野こども園



広野町教育施設エリア

ふたば未来学園

広野小学校

総合グラウンド

児童館

広野こども園

広野中学校

未来館



広野町教育施設エリア

教育環境グランドデザイン検討委員会
略称：GDC (Grand Design Committee)

■レジメ

1：委員会発足経緯	-----	2
①発足目的	-----	2
②いつGDC発足したか	-----	3
③委員メンバー	-----	3
④委員会開催回数と議論概要	-----	3
2：広野町教育施設エリア全体構想について	-----	4
①全体構想・タイムスケジュール	-----	5
②安全対策	-----	6
③憩いの場・開かれたエリア	-----	6
④環境対策	-----	7
⑤デザイン対策	-----	7
3：広野小学校について	-----	8
①全体構想・大規模修繕による長寿命化	-----	9
②安全対策・道路整備への配慮	-----	10
③環境対策	-----	11
④大規模修繕全体イメージ	-----	12

4 : 広野中学校について -----	14
①全体構想・建替えと複合施設化 -----	14
②安全対策・セキュリティ対策 -----	17
③環境対策 -----	17
④複合施設の機能 -----	18
5 : 給食センターについて -----	19
①建築計画 -----	19
②給食センター調理場導線計画 -----	21
③食育対策・展示、見学の充実 -----	22
④タイムスケジュール -----	22
6 : 今後の進め方について -----	23
①小学校 -----	23
②中学校 -----	23
③給食センター -----	23
おわりに -----	24
参考文献 -----	24



1：委員会発足経緯

- ①発足目的
- ②いつGDC発足したか
- ③委員メンバー
- ④委員会開催回数と議論概要

現在、広野町には教育施設として、町立の「こども園」「小学校」「中学校」がある。こども園は建築年度2018年だが、広野小学校校舎は1985年建設（築38年）。広野中学校校舎は1970年建設（築53年）を迎え、老朽化が著しい。（広野町公共施設等個別施設計画（令和3年3月）より）

また、建設当時の設計コンセプトには「SDGs」「ユニバーサルデザイン」「省エネ化」などの概念もなく、時代に取り残された建物になりつつある。

近年、破損した部分を都度、修繕しているものの、今後、更に修繕費が増加する可能性が高い。

そこで、小学校、中学校の在り方について、ハード面だけでなく、ソフト面も含め、今後のランドデザイン（あるべき姿）を明確にし、その方向性に沿って、建物の改修、新規建設等を検討したい。

（令和4年12月12日起案 広野町教育環境ランドデザイン検討委員会設置要綱について（伺い）より
一部修正）

広野小学校及び広野中学校を取り巻く課題を抽出した上で、学校施設のあるべき方向性、将来像等を共有し、その概念を広野町教育環境ランドデザインとしてまとめ、小中学校の児童及び生徒に充実した教育環境及び空間を提供するため、広野町教育環境ランドデザイン検討委員会を設置する。

（広野町教育環境ランドデザイン検討委員会設置要綱（第1条（設置）より））

教育環境ランドデザイン検討委員会
略称：GDC (Grand Design Committee)

1：委員会発足経緯

②いつGDC発足したか

- ・令和4年12月12日：広野町教育環境グランドデザイン検討委員会設置要綱（伺い）
- ・令和4年12月22日：課長等会議にて当該委員会発足主旨説明
- ・令和4年12月23日：各課へ検討委員会委員推薦（伺い）
- ・令和4年12月28日：検討委員会令和4年度委員任命
- ・令和5年01月19日：第1回広野町教育環境グランドデザイン検討委員会開催
- ・令和5年04月07日：検討委員会令和5年度委員任命

1：委員会発足経緯

③委員メンバー

令和4年度

役職	所属	氏名
委員長	学校教育課 課長補佐兼係長兼指導主事	寺島 克彦
副委員長	こども家庭課 係長	阿部 加奈子
検討委員	総務課 課長補佐	金子 一隆
	復興企画課 課長補佐	北郷 功
	産業振興課 農業委員会事務局長	久田 宗俊
	建設課 係長	坂本 充宏
	環境防災課 課長補佐	志賀 裕一
	町民税務課 課長補佐	林 澄子
	健康福祉課 課長補佐	鯨岡 晋悟
	生涯学習課 課長補佐	鯨岡 圭介
事務局	学校教育課 主任主査	佐々木 道夫

令和5年度

役職	所属	氏名
委員長	学校教育課 課長補佐兼係長兼指導主事	寺島 克彦
副委員長	こども家庭課 係長	阿部 加奈子
検討委員	総務課 課長補佐	佐藤 和也
	復興企画課 課長補佐	北郷 功
	産業振興課 課長補佐	金子 一隆
	建設課 課長補佐	志賀 裕一
	環境防災課 課長補佐	鯨岡 圭介
	町民税務課 課長補佐	林 澄子
	健康福祉課 課長補佐	鯨岡 晋悟
	生涯学習課 課長補佐	鈴木 恵
事務局	学校教育課 主任主査	佐々木 道夫

- ・ 令和5年01月19日 : 第1回検討委員会
 - ・ 「教育の丘」のあるべき姿について
 - ・ 「教育の丘」のあるべき施設について
 - ・ 中学校 建替えか？大規模修繕か？場所は？
- ・ 令和5年02月14日 : 第2回検討委員会
 - ・ 「教育の丘」又は「教育施設エリア」のあるべき姿について
 - ・ 中学校のあるべき姿について
 - ・ 小学校、中学校 現地視察
- ・ 令和5年03月08日 : 第3回検討委員会
 - ・ 中学校のあるべき姿について
 - ・ 小学校、給食センターについて
- ・ 令和5年04月03日 : 第4回検討委員会
 - ・ 小学校について
 - ・ 給食センターについて
- ・ 令和5年05月19日 : 第5回検討委員会
 - ・ 給食センターについて
 - ・ 小学校について
 - ・ 中学校について
 - ・ 全体計画について
- ・ 令和5年06月23日 : 第6回検討委員会
 - ・ 報告書構成（建付け）について
- ・ 令和5年07月12日 : 第7回検討委員会
 - ・ 報告書案について
- ・ 令和5年08月09日 : 第8回検討委員会
 - ・ 報告書案について

2：広野町教育施設エリア全体構想について

- ①全体構想・タイムスケジュール
- ②安全対策
- ③憩いの場・開かれたエリア
- ④環境対策
- ⑤デザイン対策

ふたば未来学園

広野小学校

総合グラウンド

広野こども園

広野中学校

未来館

※本報告書は委員会の将来構想に関する思いをまとめました。
本来は「〇〇したい。」「〇〇した方が良い。」等の文体で文章とすべきですが、教育環境グラウンドデザイン検討委員会に参加戴いた委員の皆さんの思いを強く主張したく、あえて「〇〇します。」等の文体としました。
ご理解戴き、お読み戴ければ幸いです。

広野町教育施設エリア全体構想 概要

■ 全体構想

- ・パッシブデザイン(※1)を主体とし、教育施設エリアを計画する。
- ・児童生徒を含めた教育施設エリアを検討する組織を作る。
- ・教育施設エリア全体構想を模索し、醸成し、進化、継続を図る。
- ・広野町ゼロカーボンシティ宣言に貢献する。

■ 外構

- ・東西（中学校～未来学園）約1.0Km、南北（こども園～小学校）約0.5Kmを教育施設エリアとする。
- ・住民の憩いの場、心地よい場所となるよう計画する。
- ・住民に開かれた場所とする。

■ 小学校（校舎1985年建設。2023年築38年）

- ・大規模修繕を主体に計画する。
- ・施設の長寿命化(※2)を図る。
- ・安全性向上、省エネ化を盛込む。
- ・R5年度、修繕計画作成。
- ・R6年度から修繕工事開始。

■ 中学校（校舎1970年建設。2023年築53年）

- ・建替えを検討する。
- ・複合施設化(※3)を検討する。
- ・R6年度から基本構想開始。
- ・R12年度（2030年度）新校舎開校を目指す。
(※4)

■ 給食センター

- ・現衛生基準適合施設とする。
- ・食育の充実を図る。
- ・給食センターの見える化を図る。
- ・R5年度 実施設計。
- ・R6年度 建設工事開始。
- ・R7年7月完成を目指す。

※1：パッシブデザインとは太陽の光や熱、風、緑といった自然のエネルギーを積極的に利用する設計手法のこと

※2：長寿命化：目標耐用年数 65年と設定（現状の既存施設の平均使用年数は40年）（広野町公共施設等個別施設計画R3.3より）

※3：複合施設化とは、中学校に加え、地域交流施設(雨天遊び場等)学習支援施設（図書館等）やスポーツ施設(プール、テニスコート等)等を一体として計画する。

※4：広野町公共施設等個別施設計画（R3.3）では中学校の建替え時期を2035年度としている。

・目的：

小学校、中学校、こども園、文化交流施設、高校などの教育施設を有機的かつ機能的に結び付け、地域全体の教育環境の充実と地域コミュニティの発展を促進することを目的とします。

安全対策、憩いの場としての開かれた施設、環境対策、デザイン対策等のハード面から検討を進め、タイムスケジュールとしてまとめます。

・広野町教育施設検討対象エリアと建物について：

広野町教育施設エリアにある施設は、こども園、小学校（給食センター含む）、中学校、未来学園、総合グラウンド、文化交流施設、児童館です。

これらの教育施設は連携を図り、地域の文化を活性化させ、地域のニーズに答え、施設改善を常に行うと伴に魅力ある個々の施設である必要があります。

また、施設の屋外についても広野町教育施設エリア全体（東西約1km（中学校から未来学園）、南北0.5km（小学校からこども園））の外構全体を整備し、エリア全体の魅力向上に努める必要があります。

・基本構想について：以下の2点を構想の軸に据えます。

①パッシブデザインを主体とした教育施設エリアと建物であること。（パッシブデザインとは太陽の光や熱、風、緑といった自然のエネルギーを積極的に利用する設計手法のこと）樹木、緑、水などを積極的に取入れ、夏は涼しく、冬は暖かい空間を造ります。心地よい空間は住民へも開放できるようにします。

②基本構想は継続的検討をします。サステナブル（持続可能）な構想を継続するため小中高生も含めた検討委員会を運営し、構想の醸成と進化を継続的に行います。



広野小学校



広野中学校



広野こども園

・タイムスケジュールについて：

給食センターの建替え、小学校の大規模修繕、中学校の建替えなど、教育施設の老朽化と震災による施設の劣化など、個々の対策検討を急ぐ必要があります。

また、町の財政等を考慮する必要もあり、密度の濃い討議を重ね、修繕、建替え計画を作成する必要があります。下記の「広野教育施設 修繕・建替え 計画タイムスケジュール 案」にまとめました。

広野教育施設 修繕・建替え 計画タイムスケジュール 案

		R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13
		2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度	2031年度
給食センター	新築工事	基本設計 R4.12~R5.3	実施設計 R5.6~R6.3	建設工事 R6.4~R7.7	給食開始 R7.9						
	旧給食センター 解体計画				解体工事 R7.10~R8.2						
広野小学校	校舎・体育館 大規模修繕計画		基本計画 R5.8~R6.3	修繕検討委員会 R6.5~R6.7							
				大規模修繕工事 R6.8~R9.3							
広野中学校	校舎建替え 体育館・実習棟 修繕計画			検討委員会 (基本構想+施設運営計画+維持管理計画) R6.4~R8.3	基本設計 (財源計画他) R8.4~R9.3						
						実施設計 R9.4~R10.3	建設工事 R10.4~R12.7	R12.2学期から 新校舎使用			
	旧校舎解体 計画									旧校舎解体 R12.9~R13.3	

■図表6-3：施設ごとの対策の実施時期
(広野町公共施設等個別施設計画 R3年3月より)

- 給食センター：・2027年大規模修繕。・2052年建替え。
- 小学校 校舎：・2025年大規模修繕。・2050年建替え。
- 小学校体育館：・2026年大規模修繕。・2051年建替え。
- 中学校 校舎：・2035年建替え。
- 中学校実習棟：・2032年大規模修繕。
- 中学校体育館：・2030年大規模修繕。・2055年建替え。

- 計画案：
- 給食センター：令和4年度、基本設計（完了）。令和5年度、実施設計。令和6年度、建設工事。令和7年9月、給食提供開始を目指します。
 - 広野小学校：大規模修繕を前提として、令和6年度から令和8年度の3年程度で修繕工事を実施。建物の長寿命化を目指します。
 - 広野中学校：建替えを前提として、令和6~8年度、基本構想+基本設計。令和9年度、実施設計、令和10年度~12年度、建設工事。令和12年度、新校舎開校を目指します。

※計画はスケジュールに沿って進めることを目指しますが、何らかの要因により遅延することも考慮しておく必要があります。

2：広野町教育施設エリア全体構想について

②安全対策

・ **目的**：施設の安全、交通への安全、防犯配慮等の角度から安全への配慮を行うと共に、啓発活動等のソフト面の情報も共有し、真の安全を目指します。

・ **危険個所の特定（校舎内外での児童生徒が転んだり、つまずいたりすることへの配慮）**：

教育施設エリア内外の安全点検を定期的を実施し、危険箇所や改善が必要な施設の特定、及び危険箇所への対策を速やかに実施します。

・ **交通安全への配慮**：

横断歩道や暗いスクールゾーンその他、計画道路など今後予想される交通量の変化等への配慮、対策を行います。夜間照明を計画的に配置し、登下校児童生徒の安全を確保します。

・ **防犯対策**：

防犯上の安全対策として、防犯カメラやセキュリティシステムの導入と管理体制を確立します。

・ **これらハード面に加え、ソフト面として、**

- ・ 防災訓練や緊急時の対応策の徹底。マニュアルの点検。
- ・ 門限や施設内への立ち入り制限など厳格な管理。
- ・ 交通安全教育の実施。
- ・ 生徒への事故や犯罪の予防に関する啓発活動。
- ・ 学校内でのいじめや暴力行為の対応策の徹底。
- ・ 災害や緊急事態に備え、保護者や地域住民との円滑な連絡体制の定期的確認。
- ・ 緊急時の連絡先や避難場所の情報共有、情報の迅速な伝達。
- ・ 生徒のメンタルヘルスへの配慮。心理カウンセリングやサポート体制の整備。
- ・ 学校内でのいじめや差別の予防への取り組み。
- ・ 地域の警察や防災機関との連携体制。
- ・ 地域の保護者や関係者との定期的な意見交換や協力体制。



小学校中庭



小学校昇降口

などハード、ソフト両面から学校の安全と安心を向上させることを目指す必要があります。また、ソフト面は特に教職員や保護者を含めた検討や活動が必要となります。

- ・ **目的：**教育施設エリアを住民の憩いの場として提供すること、児童生徒の居心地の良い空間を提供することで、児童生徒と住民の絆を強くすることを目指します。
 - ・ 教育施設エリアにベンチや給水ポイント、日よけなどを配置し、地域住民や保護者の他、児童生徒の通学時に立ち止まれる快適なスペース（休憩スポット）を提供します。
地域住民や保護者が教育施設エリアに居ることで、防犯強化につながります。
 - ・ ユニバーサルデザインの視点を加え、手すりの設置なども検討し、人にやさしい教育施設エリアを目指します。
 - ・ 植樹、樹木により防風対策（防風林）を行うと同時に、樹木により、視界が遮られないように樹木の密度を計画し遠方までの視界を確保することで防犯への配慮を行います。
 - ・ 芝刈り、草刈り、樹木の剪定などの恒常化を図り、環境美化に努めます。
- ・ ソフト面では、
- ・ コミュニケーションを活発化させるため、地域住民との連携強化を図ります。
 - ・ 文化交流や地域文化団体とのイベントを推進します。



憩いの場 ベンチ（イメージ）



樹木（イメージ）



芝刈りスポット

・ **目的**：教育施設エリアにおける環境対策、日射対策、熱中症予防、冬の防風対策、交通対策を実施し、安全で快適な空間を提供します。「広野町ゼロカーボンシティ宣言」に貢献します。

・ パッシブデザインを積極的に取り入れ、光、風、水、緑などの自然を取り込むことで快適な空間を目指します。パッシブデザインで補えないエネルギーは再生可能エネルギーをベースとした太陽光発電などで補い、省エネ化を促進します。

・ 施設内外での省エネ促進。LED照明の導入や断熱材の強化などでエネルギー使用量抑制効率の向上を図ります。

・ 日射を適度に制御すること。給水ポイントをつくることなどで、熱中症対策を行います。

・ 冬の強い北西風を制御するため、樹木による防風対策を行います。

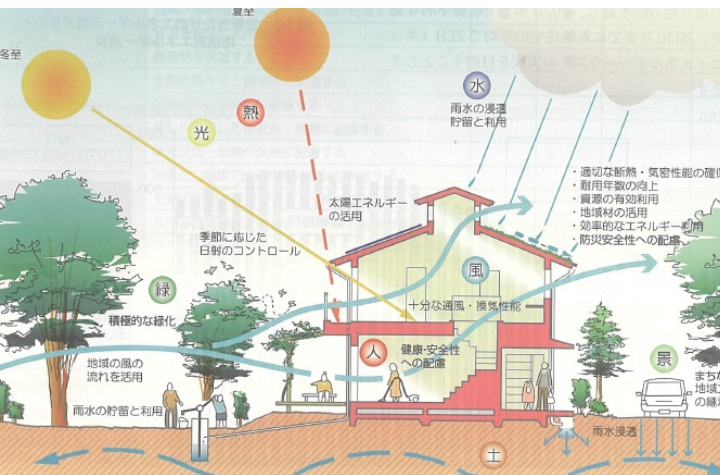
・ 施設内の温度、湿度、風向、換気などのデータを児童生徒と研究機関、専門機関との連携で分析、研究し、施設内の快適性を追求します。

・ ZEB化を目指し、使うエネルギーを全て自然エネルギーで賄うことを目指します。

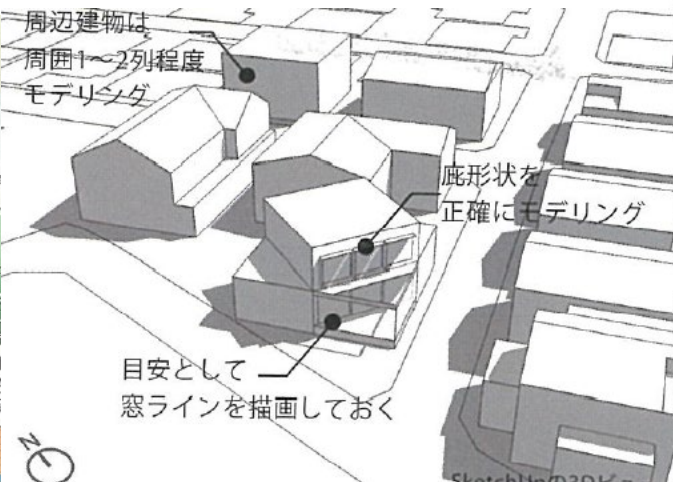
・ 人と車の完全分離を目指し、歩車混在エリアをできるだけ少なくします。

・ 設計段階で事前にシミュレーション解析を行い、見える化を図ります。

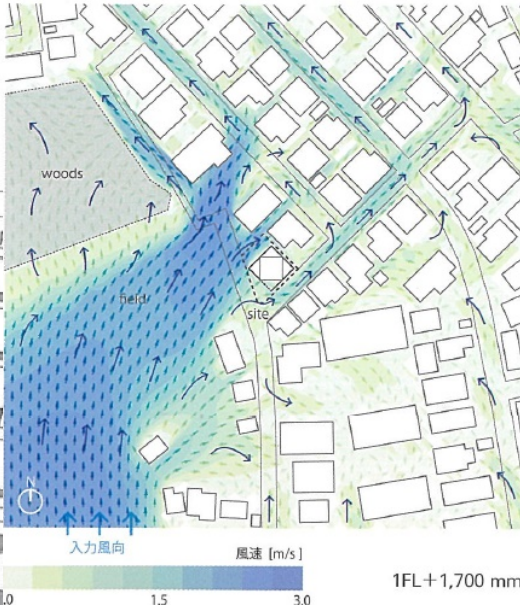
※パッシブデザインとは：太陽の熱や光、風といった自然のエネルギーを、機械を使わずに建物に利用する設計手法のこと。反対はアクティブデザイン。



パッシブデザイン住宅イメージ (kkjより)



庇のつくる日影解析モデル (環境シミュレーションより)



広域の風速風向解析モデル (環境シミュレーションより)

・目的：

教育施設エリア全体を「美しい街並み」になるよう計画し、地域住民が快適に散策できる落ち着いたエリアを目指します。

・意匠統一：建物の色は、日常的色彩を主体とした色合いとし、落ち着いた施設を目指します。

・樹木、樹種の取り決め：

①並木：防風林的機能を持たせ高木とし、風に強く、冬でも落葉することがなく、かつ、枝が折れる等の危険性が少ない樹木とします。（もみの木など）

植林の密度を適度に行い、人の視界の妨げとならないよう配慮します。

②シンボルツリー：入学式や卒業式などのイベントでの撮影背景となる場所を提供します。

また、四季の変化で開花、新緑、紅葉などを楽しめる樹木とし、卒業後も思い出がよみがえる樹木とします。（サクラ、しだれザクラ、イチョウ、モミジなど）

・夜間照明：外灯色に電球色を主体とし、落ち着いた教育施設エリアの雰囲気を目指します。

・樹木の整備と管理：定期的樹木診断と剪定を行い、環境美化に努めます。

・緑化の促進と管理：芝刈りロボット等により恒常的に美しい芝を維持管理します。

・施設間や駅からのアクセスの快適性：木陰を歩く。給水ポイントを設ける。ベンチを配置するなどにより、美しい街並みの中での休息できる快適な空間を提供します。



樹木 並木



イチョウ並木



シンボルツリー



広野こども園ナイトフェイス

3：広野小学校について

- ①全体構想・大規模修繕による長寿命化
- ②安全対策・道路整備への配慮
- ③環境対策
- ④大規模修繕全体イメージ



3：広野小学校について ①全体構想・大規模修繕による長寿命化

①現小学校について：

現小学校の校舎は1985年建設で2023年で築38年を迎えます。

建築計画当時は「ユニバーサルデザイン(UD)」 「バリアフリー(BF)」 「省エネ化・断熱化」などの考え方は無く、段差が多々あったり、使い方を限定したことにより多様な使い方に向かない空間が存在します。

(例えば、中庭、吹奏楽の演奏会を想定して、ステージや聴衆が座るための段差がありますが、現在は吹奏楽部は無く、演奏会も行われていません。

また、床は段差と滑りやすいタイルであることから、現在、中庭へ児童が入ることを制限し、使用禁止となっています。

②現在も通用するディテール：

小学校校舎は、天井の高さや広さ、室内への採光など、現在でも通用する空間であることも事実です。

③大規模修繕について：

従って、現校舎をプラットフォームとして、1985年当時には無かった「ユニバーサルデザイン」等のコンセプトを加えた大規模修繕を行うことで、長寿命化を図ります。

④タイムスケジュール：

広野町公共施設等個別施設計画 R3.3では、小学校の大規模修繕時期を2025年に置いています。

従って、令和5年(2023年)に修繕計画を、検討、立案します。夏休み等の長期休暇に集中的に工事を行うことで、仮設校舎を使わず工事を実施することを前提に、3年程度かけ工期を分割し完成を目指します。

⑤修繕すべき3要素：「UD/BF」「安全」「環境」を軸に、施設の長寿命化を目指します。



中庭



8 教室

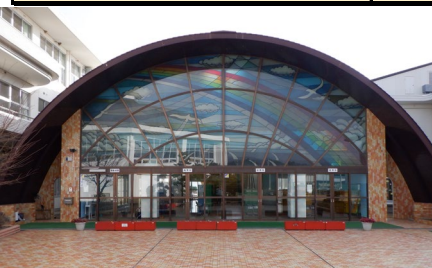


廊下

⑤修繕すべき要素（1）：

下記要素を修繕要素とし、改善検討します。また、今後の調査や周辺開発要素等を別途検討します。

安全性向上	必要要素	<ul style="list-style-type: none"> ・建物：老朽化に伴い、耐震性、防災性、安全性の確認、危険箇所の確認が必要です。 ・交通：通学路、スクールゾーン、計画道路完成後の対策、検討が必要です。 ・防犯：防犯上の安全対策検討、施錠ロックの状況確認が必要です。
	具体要素	<ul style="list-style-type: none"> ・建物：・コンクリートの中酸化試験。・段差解消・すべりやすい素材の撤去。 ・交通：・車歩分離・視界確保 ・防犯：・防犯カメラ設置・施錠開錠遠隔操作ロック
設備の更新	必要要素	<ul style="list-style-type: none"> ・通信設備：校内通信網の老朽化、劣化の確認が必要です。 ・電気設備：落雷対策、省エネ化対策、検討が必要です。 ・空調設備：空調機器の点検が必要です。 ・衛生設備：受水槽の有無検討が必要です。排水、污水配管調査が必要です。
	具体要素	<ul style="list-style-type: none"> ・通信設備：・校内電話点検。・ICT機器WiHi環境点検。・放送設備点検。 ・電気設備：・照明のLED化。 ・空調設備：・省エネ機器への入替え ・衛生設備：・配管点検、清掃、修繕。 ・その他：・黒板の上下移動操作機修繕
清潔度の向上	必要要素	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的清掃委託している箇所以外の清掃箇所の洗い出しが必要です。
	具体要素	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレの乾式化、尿石除去・カーペット床の撤去、フローリング化・自動水栓（済） ・洋式便器化（済）・下水污水管清掃



滑りやすい床材の撤去



カーペット床の撤去とフローリング化



照明LED化



防犯カメラ設置

⑤修繕すべき要素（2）：

出来る要素から具体化し、すぐに出来ない要素は検討課題として検討継続的します。

快適な環境整備	必要要素	<ul style="list-style-type: none"> ・学習効果を高めるため、教室、図書室、音楽室、体育館などの環境整備確認が必要です。 ・備品管理のため収納スペースの確認が必要です。
	具体要素	<ul style="list-style-type: none"> ・多機能トイレの設置 ・体育館の空調整備、断熱化 ・普通教室、図書室、音楽室等の特別教室の不具合、使い勝手の確認。 ・収納スペースの検討
バリアフリー ユニバーサルデザイン の整備	必要要素	<ul style="list-style-type: none"> ・障害ある児童や職員への配慮が必要です。
	具体要素	<ul style="list-style-type: none"> ・多機能トイレの設置・段差解消・エレベータ設置・手摺設置（階段は済） ・トイレ手摺設置。・引戸、ドアの開閉力修繕、手摺取付。
建物の老朽化対策	必要要素	<ul style="list-style-type: none"> ・建物の老朽化、劣化に伴う部分の修繕が必要です。
	具体要素	<ul style="list-style-type: none"> ・断熱化・ドア、引戸、窓の修繕、交換・倉庫修繕。
外構整備	必要要素	<ul style="list-style-type: none"> ・環境：樹木、植林、植栽の検討が必要です。 ・校庭：段差、スロープ、滑りやすさ等の確認が必要です。 ・道路：車歩分離検討が必要です。車歩混在エリアの安全確保対策検討が必要です。
	具体要素	<ul style="list-style-type: none"> ・環境：・植栽、樹木、緑化、防風林の設置計画。・木陰、ベンチの設置。 ・校庭：・段差の解消・滑りやすいタイルの撤去・急なスロープの解消・暗渠配置 ・道路：・車寄せ、ロータリーの検討。車道横断エリアのゼブラ化、横断歩道の検討



体育館 空調整備



階段手摺（済）



トイレ手摺



引戸修繕



段差解消

①**防犯対策**：小学校の外構フェンスでの防犯上の閉鎖はみかんの丘からの侵入経路等があり、フェンス、門扉での閉鎖は困難です。

そこで、建物入口の玄関等での閉鎖を検討します。

防犯カメラの設置や遠隔操作での施錠開錠システムその他、防犯センサーや顔認証システムなどのデジタル技術やIoT、AI（※）などの導入を検討し、児童の安全を確保します。また、異常行動の事前チェックと緊急体制・不審行動チェック、顔認証による登下校チェック、体調管理の他、カメラ・QRコード・情報分析、効率化研究などにより、開放的である一方、児童の安全も確保できる防犯性を有するよう、IoT等で補いながら、教職員の負担軽減も検討します。



■カメラ付きインターフォン（イメージ）



■防犯カメラ（イメージ）

■学校運営

- ・生徒登下校管理システム（顔認証）
- ・生徒健康管理システム 他



■遠隔施開錠機能付き自動ドア（イメージ）



画像解析ソリューション 顔認証システム(イメージ)

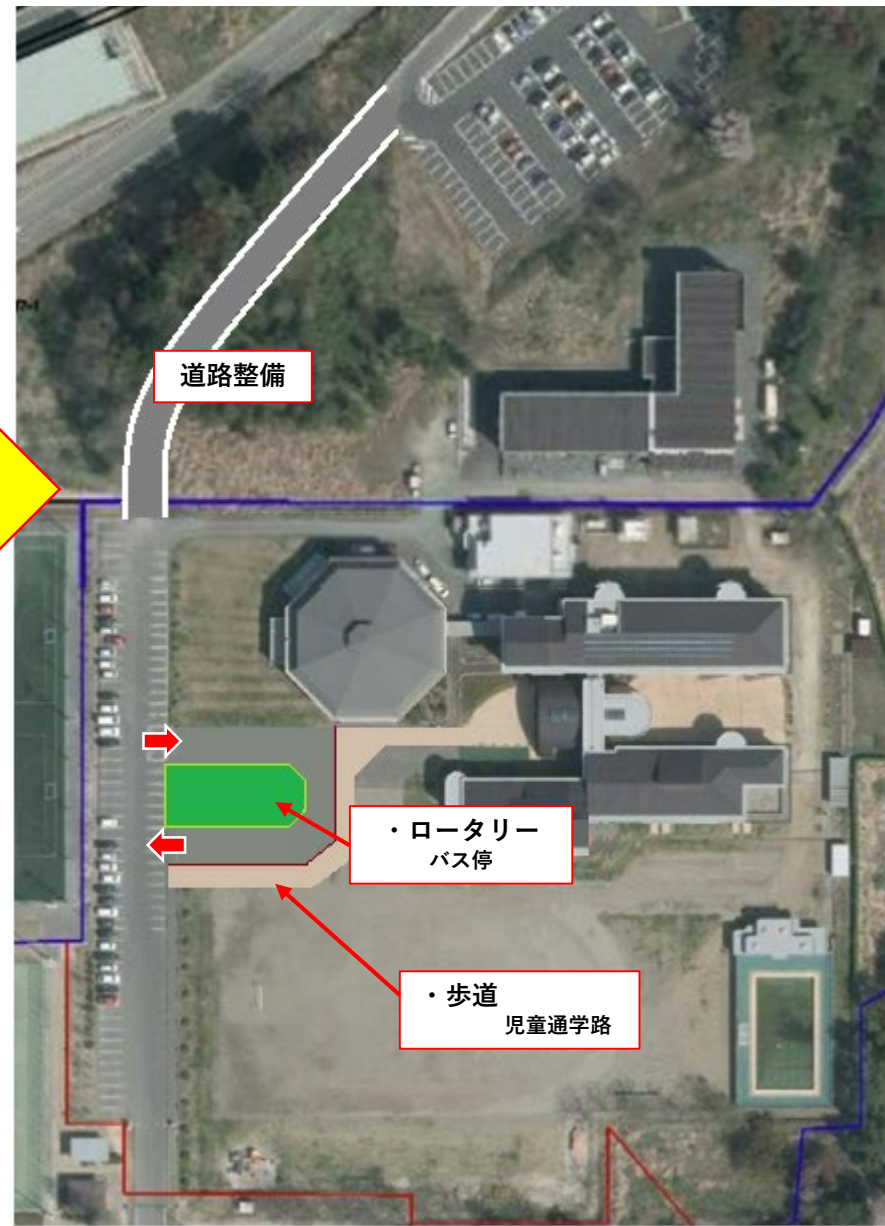


検温ソリューション 健康管理システム(イメージ)

■安全な防犯システムの追求。

- ・防犯センサー
- ・顔認証管理システム
- ・防犯カメラ
- ・遠隔施錠システム 他

②交通安全：道路からの入口は車と人のエリアを分離します。児童の歩くゾーンへの車の侵入ができない計画とします。また、校内にロータリー等を計画します。



3 : 広野小学校について

③環境対策

・ **目的** : パッシブデザインを積極的に取り入れ、光、風、水、緑などの自然を取り込むことで快適な空間を目指します。

特に小学校周辺に植林、植樹等により 緑を充実させます。また、樹木は防風林となる高木とシンボルツリーを取り入れます。樹木周辺にベンチや木陰をつくることで、夏に涼しい憩いの場をつくります。

設計段階で事前にシミュレーション解析を行い、見える化を図ります。

・ 考え方 :

考える優先順位は以下の通りとする。

- ・ 優先1パッシブ ①外構 : 周辺環境を検討する。
- ・ 優先2パッシブ ②建物 : 建築の工夫をする。
- ・ 優先3アクティブ ①設備 : 高効率設備の検討する。
- ・ 優先4アクティブ ②情報 : 管理、分析、研究する。

優先順位1~4を検討し施設のインシャルコスト、ランニングコストも考慮し快適な環境、空間を目指す。

■ 優先順位 1

- ・ 樹木を植える。
- ・ 芝生を植える。

■ 優先順位 2

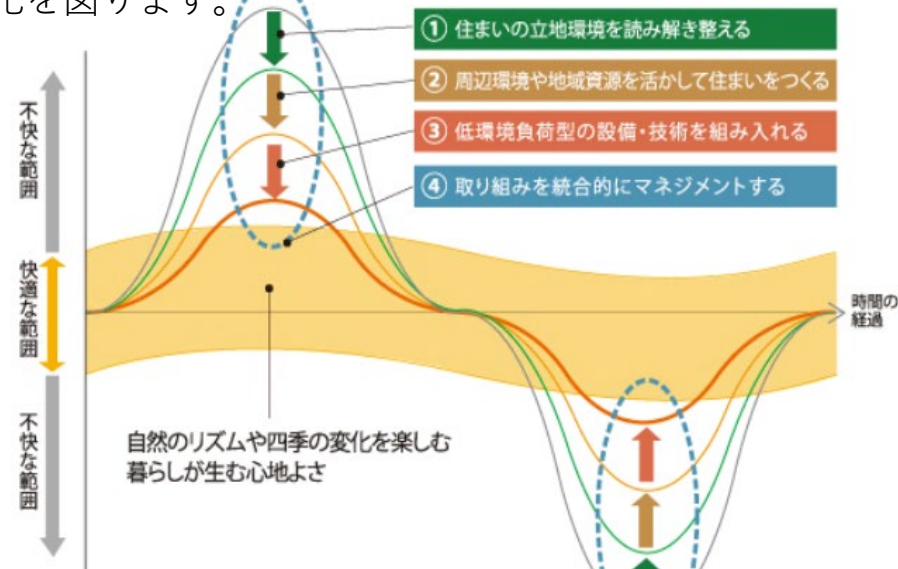
- ・ 断熱壁にする。
- ・ 断熱サッシにする。

■ 優先順位 3

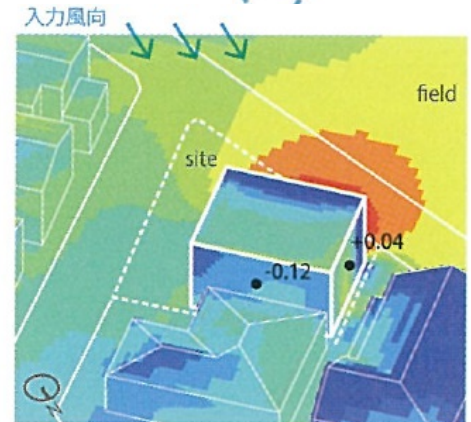
- ・ 高効率空調設備にする。
- ・ LED照明にする。
- ・ 節水トイレにする。
- ・ 熱交換換気にする。

■ 優先順位 4

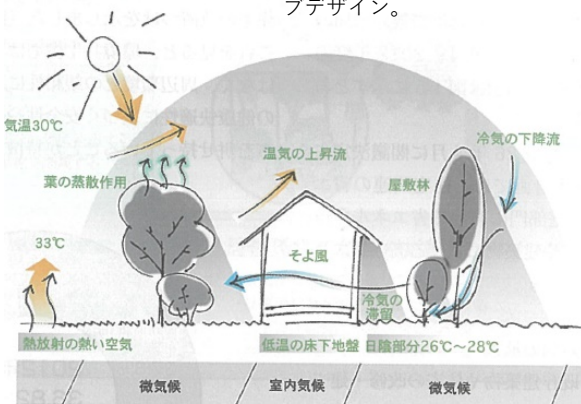
- ・ センサーを配置する。
- ・ データ分析をする。
- ・ 快適環境を研究する。



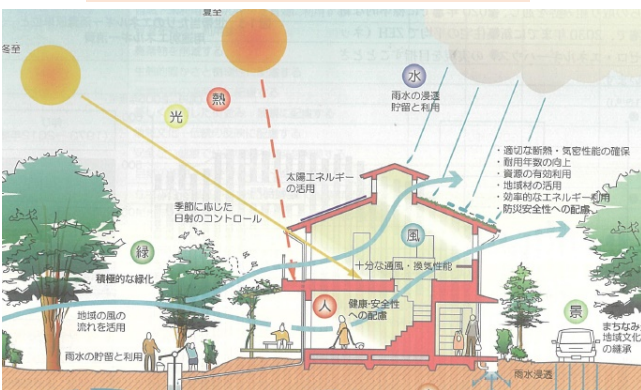
※パッシブデザインとは：太陽の熱や光、風といった自然のエネルギーを、機械を使わずに建物に利用する設計手法のこと。反対はアクティブデザイン。



北風による建物の風圧係数解析モデル (環境シミュレーションより)



パッシブデザイン住宅イメージ (kkjより)

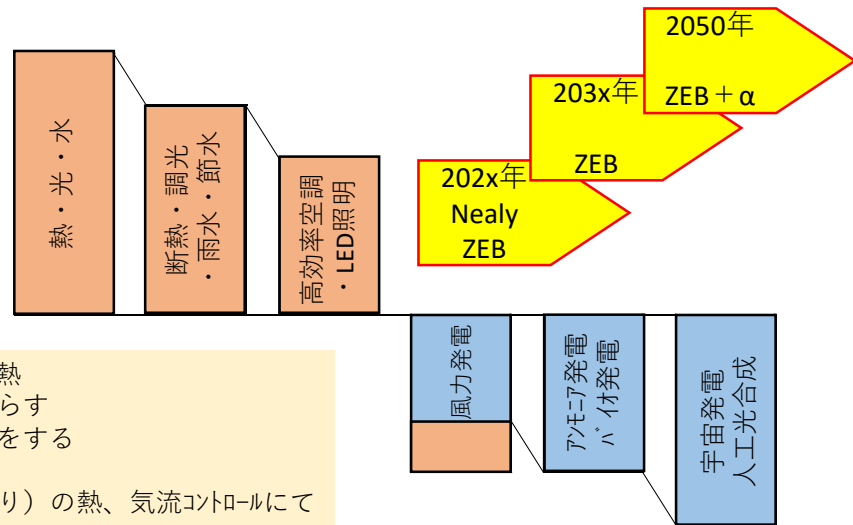


パッシブデザイン住宅イメージ (kkjより)

3：広野小学校について

③環境対策

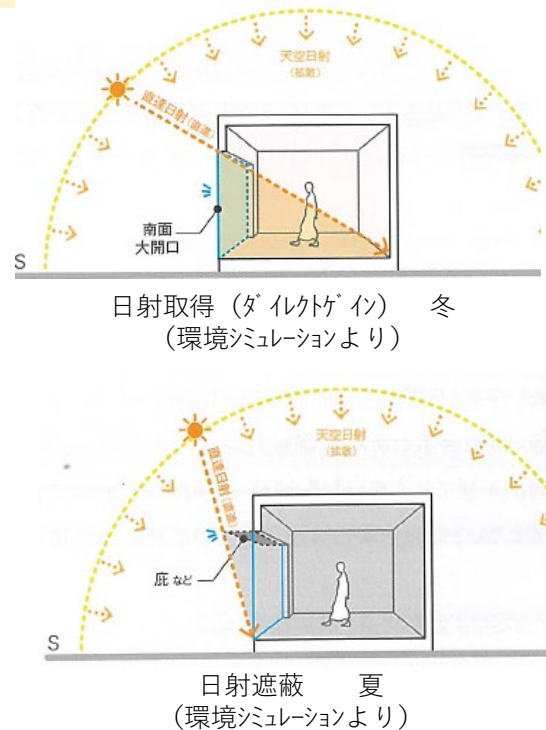
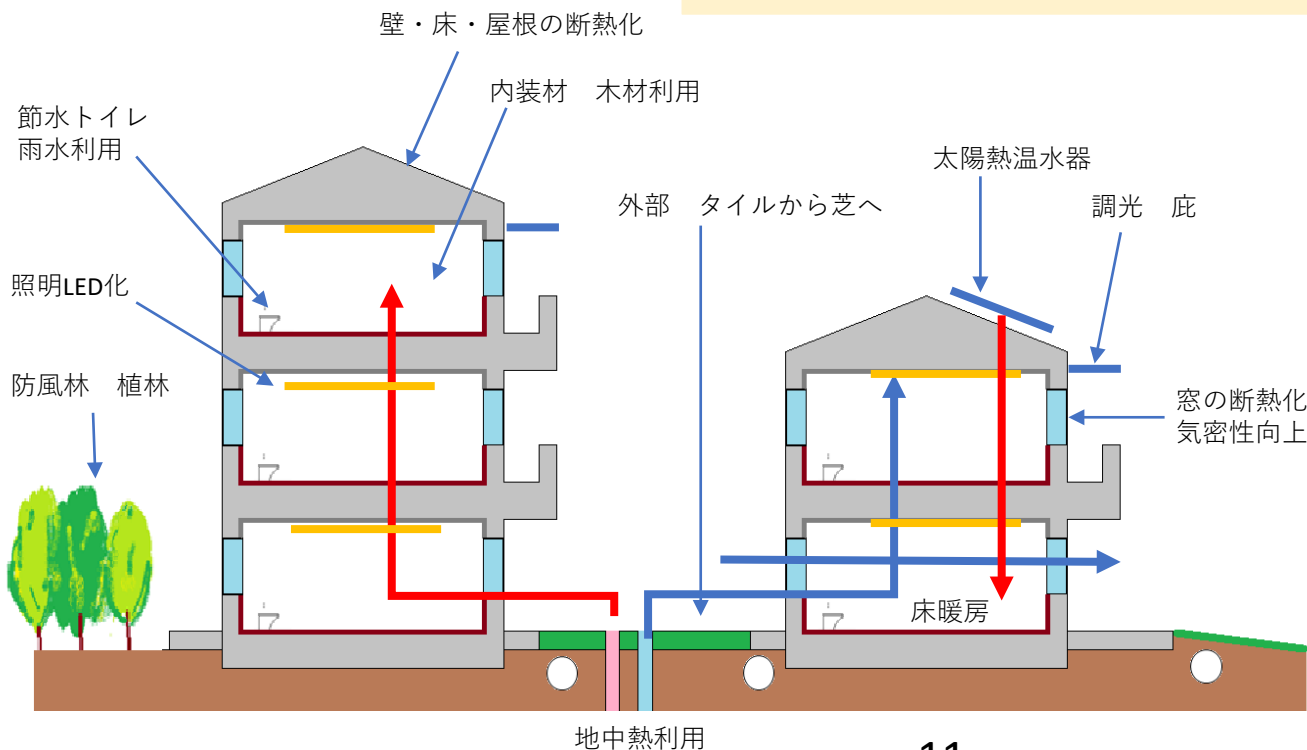
■建物の工夫や自然の取り込みで使用するエネルギーの削減を目指します。また、不足するエネルギーは再生可能エネルギーを利用し補います。
 現時点で開発中のペロブスカイト太陽電池や将来実用化される宇宙発電、人工光合成等の技術開発に期待し、203x年までにZEB化、2050年までにZEB+αを目指し「広野町ゼロカーボンシティ宣言」(2021/3)に貢献します。

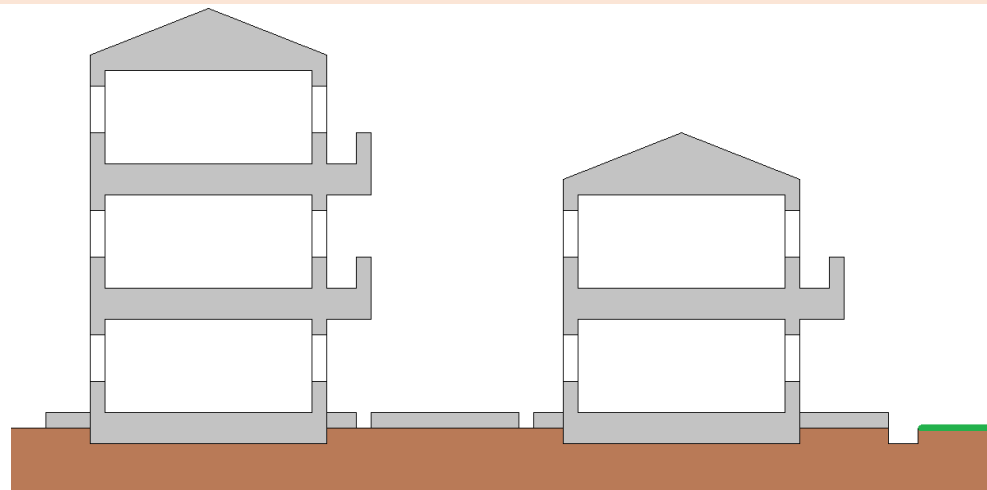


再生可能エネルギー
 風力発電
 バイオ発電
 ペロブスカイトPVバイオ発電

熱交換換気
 高効率空調機

※高断熱化：外部へ逃げる熱（エネルギー）を減らす
 ※高气密化：気流のコントロールをする
 ※※計画通り（シミュレーション通り）の熱、気流コントロールにて
 ①エネルギーロスの削減。②快適空間の実現。を目指します。

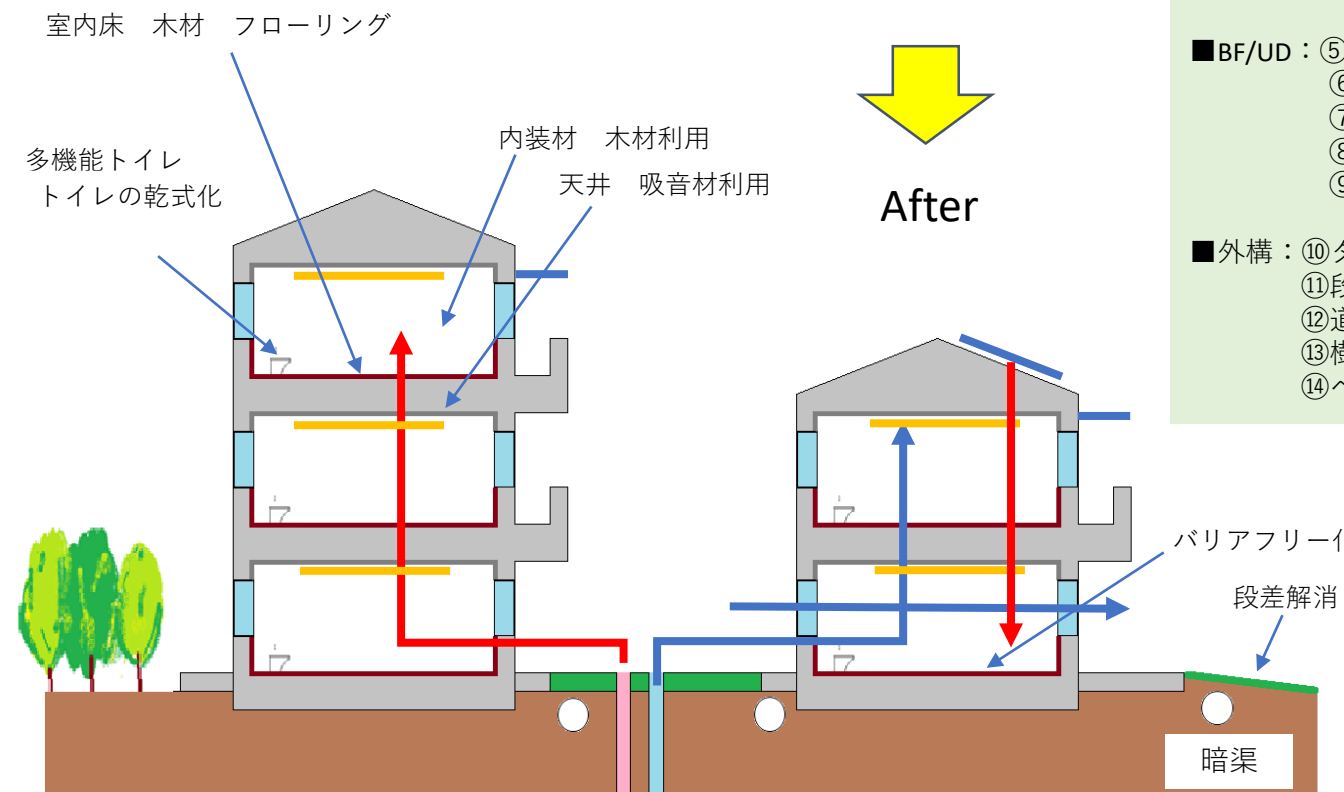




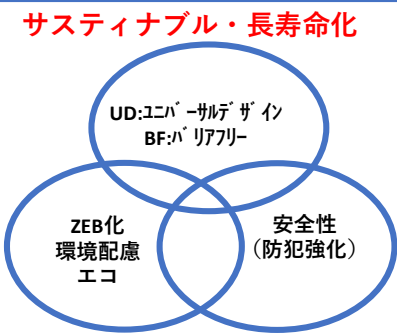
Before



After



- 安全：建物：耐震、防災、危険個所の確認
交通：通学路、道路整備の対策検討
防犯：遠隔施錠コントロール、防犯カメラの検討
- 設備：通信：校内通信網の確認
電気：省エネ化対策
空調：設備点検、高効率化設備への入替検討
衛生：排水、汚水配管の点検
その他：既存不適格への対策
- 清潔：①乾式トイレ
②カーペット床からフローリングへ
- 快適：③体育館の空調整備、断熱化検討
④黒板上下装置の点検
断熱性能、気密性能向上の検討
- BF/UD：⑤トイレ手摺設置の検討（一部済）
⑥ドア、引戸開閉の確認
⑦エレベータ設置の検討
⑧多機能トイレ設置の検討
⑨階段手摺の設置（済）
- 外構：⑩タイル撤去の検討
⑪段差解消
⑫道路整備と通学路の安全確認
⑬樹木植栽の検討
⑭ベンチ、給水設備等の検討



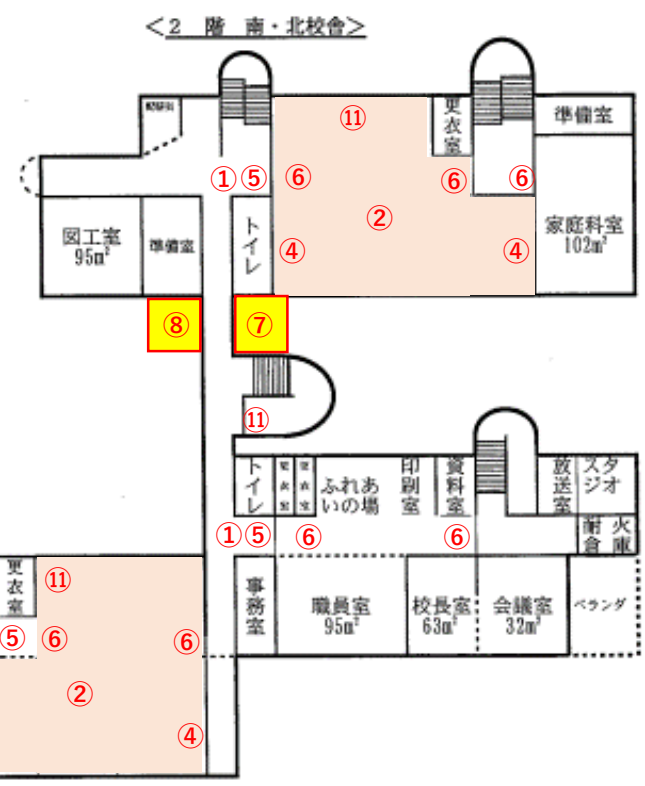
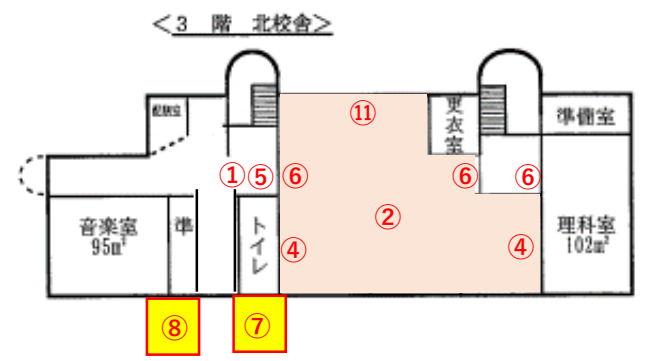
3：広野小学校について

④大規模修繕全体イメージ

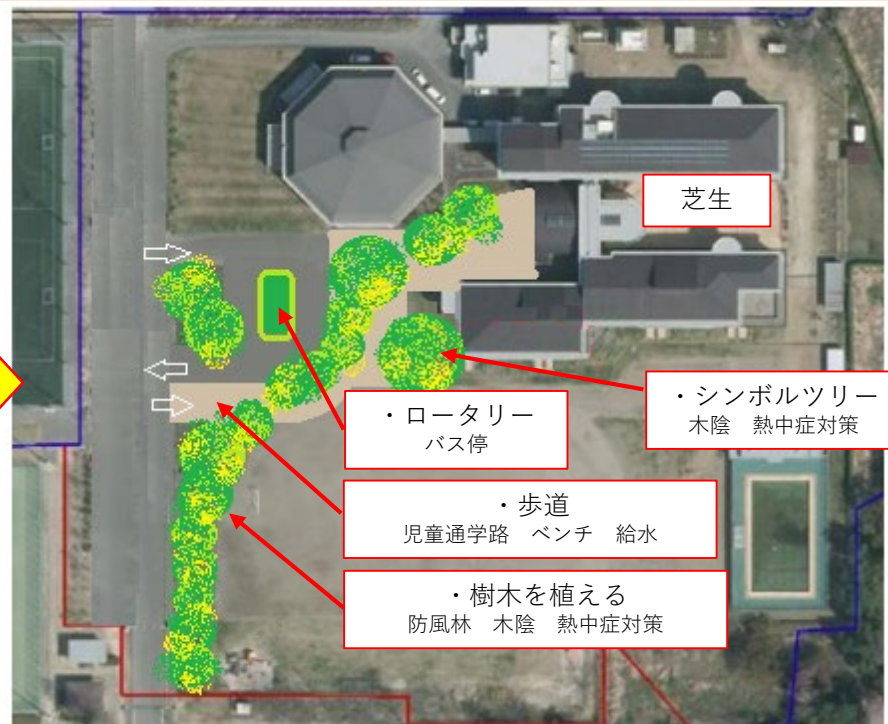
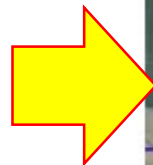
- ①乾式トイレ
- ②カーペット床からフローリングへ
- ③体育館の空調整備、断熱化検討
- ④黒板上下装置の点検
- ⑤トイレ手摺設置の検討（一部済）
- ⑥ドア、引戸開閉の確認
- ⑦エレベータ設置の検討
- ⑧多機能トイレ設置の検討
- ⑨階段手摺の設置（済）
- ⑩タイル撤去の検討
- ⑪段差解消
- ⑫道路整備と通学路の安全確認
- ⑬樹木植栽の検討
- ⑭ベンチ、給水設備等の検討

- その他
 - ・高効率空調機
 - ・熱交換換気
 - ・LED照明
 - ・内装木材使用
 - ・吸音天井
 - ・防犯カメラ
 - ・外壁タイルの劣化診断
 - ・コンクリート中性化診断
 - ・受水槽の要・不要
 - ・現給食センター撤去

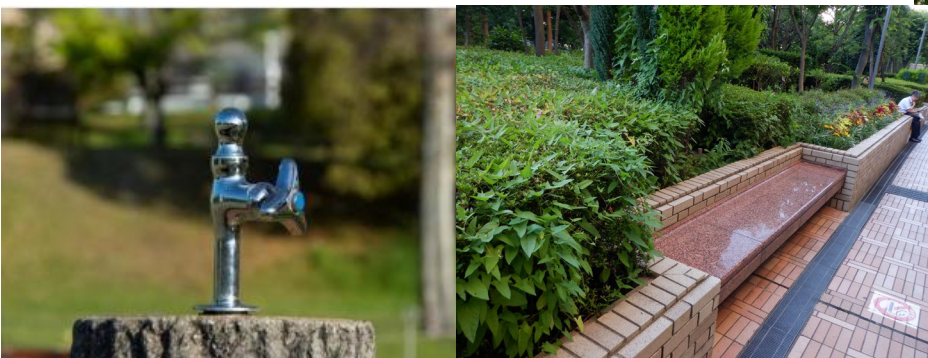
- 再生可能エネルギー導入
(2050年までに検討)
 - ・風力発電
 - ・太陽熱温水器
 - ・雨水利用
 - ・地中熱利用
 - ・バイオ発電
 - ・人工光合成



※プールについては別途協議します。



■ 防風林 植林 木陰 熱中症対策



憩いの場 ベンチと給水ポイント (イメージ)



樹木 並木 (イメージ)



シンボルツリー (イメージ)

※小学校西側を樹林帯にして、木陰。防風対策。きれいな景観を作る。
 ※中木、高木と樹木植栽密度にて、視界を確保。安全対策。
 ※シンボルツリーを植える。アイストップ、癒し・・・

■ 段差の解消



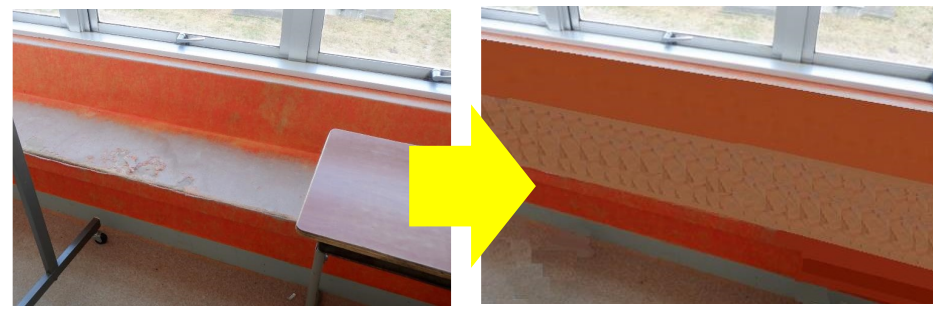
■ トイレ床の乾式化・BF



■ 段差の解消 BF



■ カーペット地の廃止 フローリング化



■ 黒板上下作動機の修繕



■ 教室床カーペットからフローリングへ・引戸修繕



4：広野中学校について

- ①全体構想・建替えと複合施設化
- ②安全対策・セキュリティ対策
- ③環境対策
- ④複合施設の機能



① 現中学校校舎について

現中学校の校舎は1970年建設。2023年（令和5年）で築53年を迎えます。大規模修繕を行った場合、夏休み等の長期休暇を使って修繕作業を進めても設備工事など休暇期間中に終わらない可能性と数年に渡る工事継続の可能性があり、効率的な工事を考慮すると、仮設校舎への転居が考えられます。

また、中学校の老朽化に伴い、コンクリートの中性化、下水、污水配管の劣化、電気や通信設備の能力不足、断熱機能の不足など、大規模修繕では対応できないところまで建物の劣化が進んでいます。

② 2校の中学校

広野町には、未来学園中学もあり、2校の中学校が存在していることから、広野中学校の特色を出し、魅力ある学校施設として、2校の中学校が相互に連携、協力しつつ、切磋琢磨できる施設となることが理想的と考えます。

③ 新しい広野中学校

中学校を主体に複合施設化を図り、複合施設と一体化した中学校施設の計画とします。

この施設は、教育機関としての機能と地域の複合施設としての機能を統合し、教育環境の向上と地域社会の活性化の促進を目指します。

新校舎教育設備には、最新の教育技術を取り入れた教室設備を検討します。例えば、インタラクティブホワイトボードやコンピュータラボ（※）などICTの充実を検討し、生徒の学習成果の向上を促します。

（※）インタラクティブホワイトボード：通常ホワイトボードの代わりに使用されるデジタルな書き込みツールです。これは、コンピュータと接続され、タッチスクリーンやデジタルペンを使って書き込みや操作を行うことができます。インターネットに接続することで、リソースや情報を共有し、オンラインでコラボしたりすることも可能です。

ICT（情報通信技術）とインタラクティブホワイトボードはどちらも教育現場で利用されるツールや技術でICTの一部です。



現在の校舎



現在の体育館



現在の実習棟

④ 現存する施設との連携

現在の体育館は1990年建設で築33年。実習棟は2012年建設で築11年であり、これらの施設はまだ使用可能で、新たに建設する中学校施設との連携が必要であることから、現実習棟、体育館、プール、テニスコートは改修を検討し、施設の長寿命化を図ります。

⑤ 建設候補地

中学校校舎の建替えする場所を現中学校敷地内とし、中学校は、実習棟、体育館、プール、テニスコートも含めた一体施設として考えます。

複合施設を含む中学校の場所としては、築地ヶ丘公園とのつながりや公園の活性化も考慮し校庭東側から南側の現中学校敷地内が最適と考えます。また、旧築地ヶ丘体育館跡地の美観も配慮が必要です。

⑥ 構造

新校舎の構造としては、木造構造を検討に加える一方で、経済性や耐久性も考慮し検討します。少なくとも内装に木材をふんだんに使った造りを目指し、地場産木材、間伐材の積極的利用を検討します。

また、居室空間については、時代の変化に対応できるよう間仕切の自由度を高めるなどフレキシブルに変化できる空間形成を目指します。



浅見川用水経路



中学校・複合施設建設候補地



図書館（役場内）

⑦ 複合施設の機能：

- ・複合施設の機能は「図書館」を中心に、役場の図書館と中学校の図書室を統合。図書機能の充実を図ります。
- ・中学校の音楽室や美術室を住民へ開放し、中学校で使用しない時間帯に住民が使える様、工夫します。
- ・部活動の地域移行を踏まえ、複合施設側に部室機能を準備します。
- ・現中学校の外部施設のプールは、小中学校共有化、住民開放、年中使える屋内化を検討します。
- ・テニスコートについても屋内化と住民への開放を検討します。
- ・中学校を含む複合施設は未来学園の生徒も含めた住民に「開かれた施設」となることを目指し、安全で安心できる快適な施設を目指します。
- ・避難施設の機能は現在と同じ、現体育館で検討し、体育館の断熱化や空調整備などの改修により快適な空間を目指します。

※複合施設の機能は、すでに町に存在する機能と重複しないよう配慮しながら、以下の機能を検討します。

(1)地域交流施設：住民との交流を深めるために、多目的ホール、雨天の遊び場、パブリックビューイング等を検討します。

(2)学習支援施設：図書館や自習室、学習支援センターなど学習環境の充実を検討します。

(3)芸術文化施設：中学校の音楽室、美術室を住民への開放を検討します。

考古学出土品展示、ストックード、研究作業の見学を検討します。

(4)スポーツ施設：プールやテニスコートを屋内化し、住民開放や年中使用の検討を行います。

(5)災害時の避難施設：現広野中学校は避難場所指定されている。この機能の充実を体育館含め検討します。

(6)部活動の地域移行：部活動が地域活動に移行することを考慮し、複合施設側に部室機能を検討します。

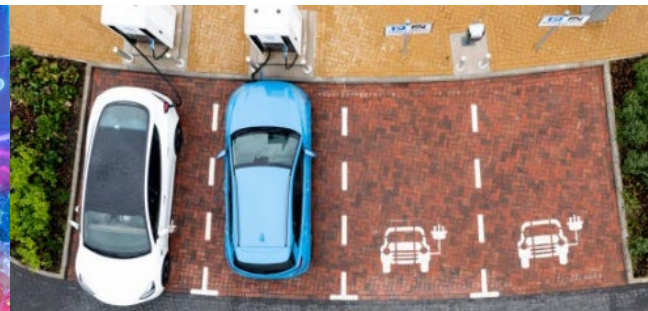
他に、駐車場スペースの確保や強風による砂埃対策、新築建物による難視聴地域の発生など検討を行います。



パブリックビューイング（イメージ）



デジタル遊び場（イメージ）



駐車場（イメージ）

⑧タイムスケジュール

タイムスケジュールは本来の「基本設計」⇒「実施設計」⇒「建設工事」の流れの前に「基本構想」を加え、「基本構想+基本設計」とし計画当初から専門家による計画検討を図ります。

「基本構想+基本設計」は環境（パッシブデザイン）を主体とし、ZEB化への検討も行います。

広野町公共施設等個別施設計画（R3.3）では中学校の建替えを2035年としていますが、できるだけ早い時期に建設できるよう前倒しを検討します。

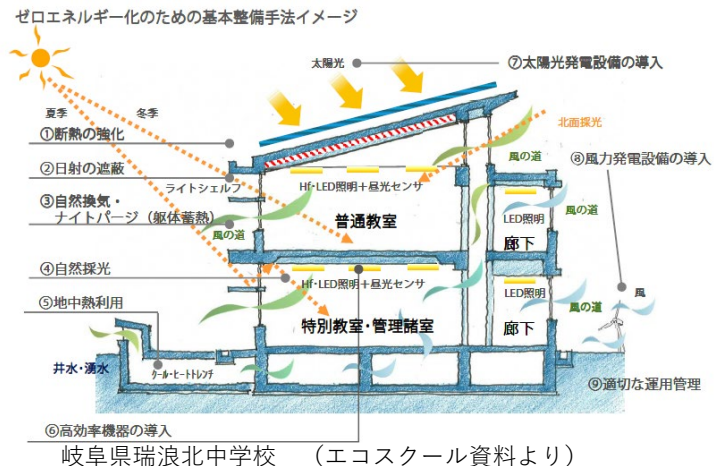
ZEB化を通して「広野町ゼロカーボンシティ宣言」へ貢献します。



広野中学校の松 シンボルツリー



築地ヶ丘公園から中学校体育館を望む



インタラクティブホワイトボード (イメージ)



広野町文化交流施設 未来館



考古学出土品展示 (イメージ)

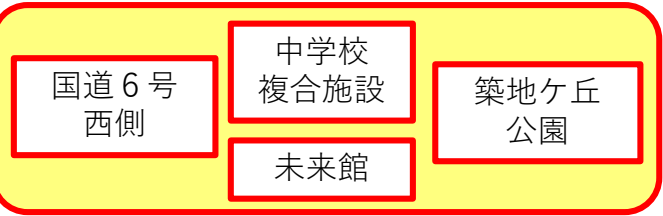
4：広野中学校について ①全体構想・建替えと複合施設化

広野中学校 施設全体構想について（まとめ）

- ① 建替えを基本として検討します。
- ② 中学校施設を中心とした複合施設とします。
 - ・複合施設側には、
 - ・図書館・展示室・室内遊び場・パブリックビューイング等を検討します。
- ③ 周辺の「築地ヶ丘公園」「文化交流施設 未来館」と連携します。
- ④ 建替え時期2035年をできるだけ前倒し検討します。
- ⑤ ZEB化を目指します。
 - ・外構に緑、植栽、水（浅見川用水）などを使って周辺環境を整えます。
 - ・建物の設計段階から使用エネルギーが少なくなるよう工夫します。
- ⑥ AIやIoTにより安全・防犯への配慮、管理の充実を図ります。
- ⑦ 体育館の改修（断熱化）やテニスコート、プールの屋内化を検討します。
- ⑧ 快適性の研究を進め、研究結果を町の施設、住宅へ反映出来るよう検討します。
- ⑨ エコスクール、エコスクールプラスへの参加を検討します。

- コンセプト1
- ・安心できる空間
 - ・楽しく過ごせる空間
 - ・全ての人にやさしい空間
 - ・個人の居場所がある空間
 - ・自然と共生する空間
 - ・不登校児のための居場所空間
 - ・集中できる空間

- コンセプト2
- ・木材をふんだんに使う
 - ・騒音対策（吸音、遮音）
 - ・光、風、水、緑、最大限有効利用
 - 植林による、防風対策、涼風取込
 - 水面涼風取込 蓄熱温風取込
 - 光コントロール（フライト・格子）
 - ・ユニバーサルデザイン
 - 多機能トイレ 車いす利用
 - エレベータ 手摺



・築地ヶ丘公園と国道6号線西側とのつながりや未来館との繋がりも検討し、連携強化を図ります。

中学校・図書館・未来館・築地ヶ丘公園

災害時：避難施設
⇒体育館を含め検討

使うエネルギーを減らす

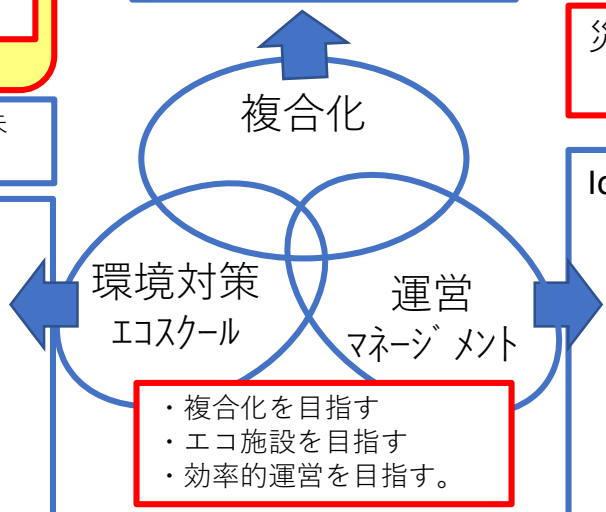
- ・高効率、省エネ設備機器（空調、換気、照明・・・）

省エネに貢献する建材、設計

- ・断熱・通風・換気・気流・光・・・

創エネ

- ・風力発電・地中熱利用・バイオ
- ・雨水利用・浅見川用水（水力発電・涼風取込）



- ・複合化を目指す
- ・エコ施設を目指す
- ・効率的運営を目指す。

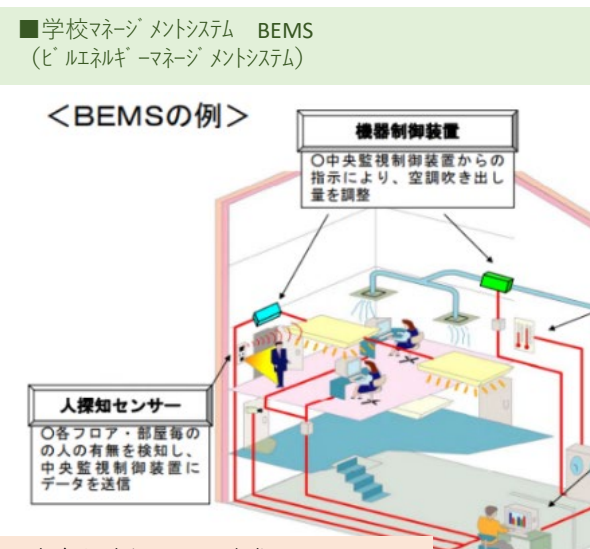
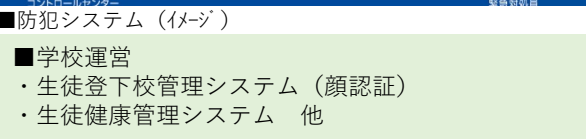
IoT・AI活用による効率的運営

- ・顔認証による登下校チェック、体調管理
- ・図書貸出、返却システム、蔵書管理
- ・会議室予約システム
- ・利用状況の見える化
- ・異常行動の事前チェックと救急体制
- ・不審行動チェック

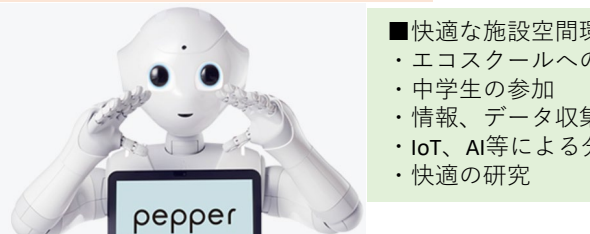
- ・カメラ・QRコード
- ・情報分析、効率化研究・・・

■運営マネジメントについて：

- ・ 中学校の防犯上閉鎖されるエリアと複合施設の住民等へ開放されるエリアが混在することを前提に、生徒の安全を確保すると同時に、開放される複合施設エリアでの安全も確保することを目指します。
- ・ 防犯センサーや顔認証システムなどのデジタル技術やIoT、AIなどの導入を検討し、安全、開放施設、閉鎖施設の両立を検討します。
- ・ IoT、AI等のデジタル技術を安全、セキュリティの他、室内環境管理（温度、湿度、気流等）、中学生の体温管理や会議室等の予約システム、図書の貸出しシステム、災害時の避難者情報など施設運営マネジメントへの拡大も検討します。



- 安全な防犯システムの追求。
- ・ 防犯センサー
 - ・ 顔認証管理システム
 - ・ 防犯カメラ
 - ・ 遠隔施設システム 他



- 環境管理
- ・ 温度センサー
 - ・ 湿度センサー
 - ・ 気流センサー
 - ・ 風力風向センサー



- 快適な施設空間環境の追求。
- ・ エコスクールへの参加
 - ・ 中学生の参加
 - ・ 情報、データ収集 ビッグデータ化
 - ・ IoT、AI等による分析
 - ・ 快適の研究

- 効率的な管理運営環境の追求。
- ・ 情報、データ収集
 - ・ IoT、AI等による分析
 - ・ ストレスフリーな運営

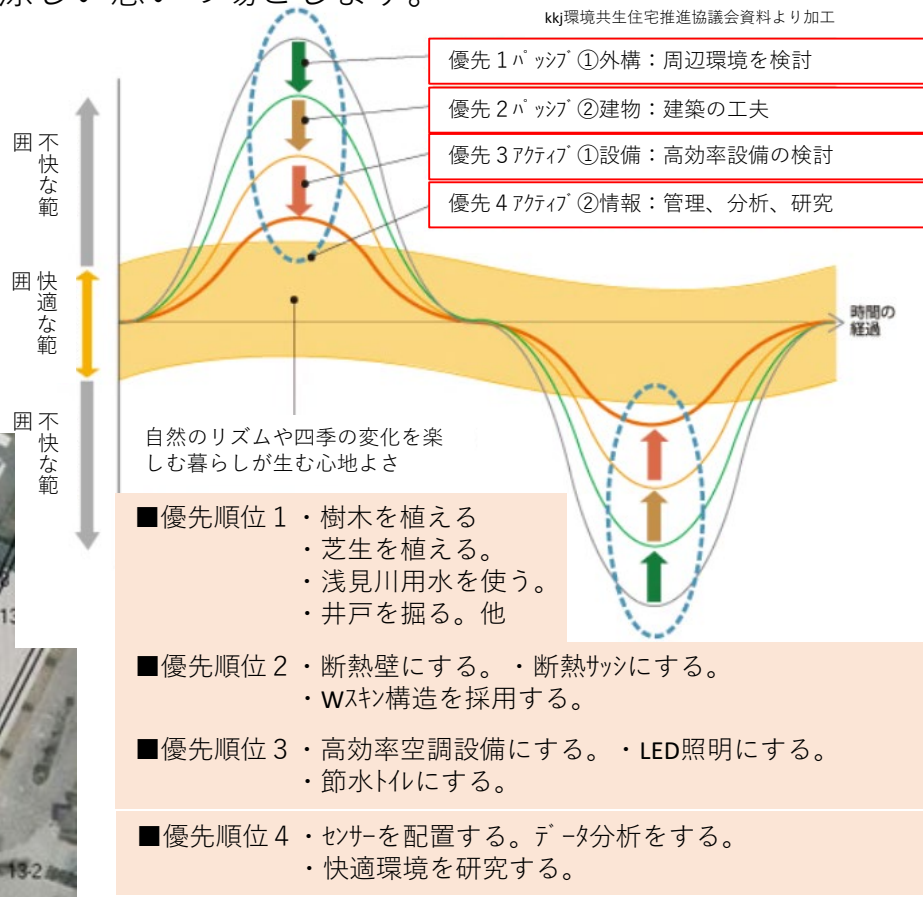
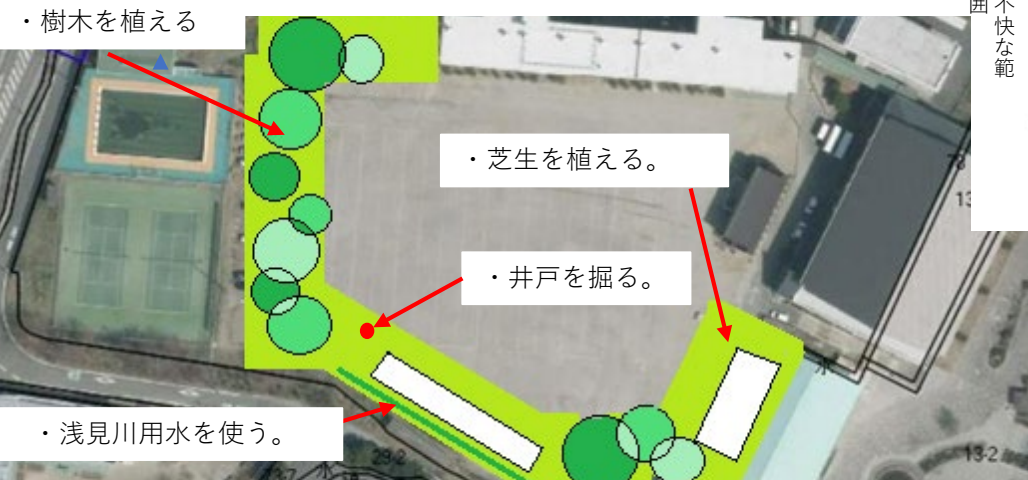
■パッシブデザインを積極的取り入れ、光、風、水、緑などの自然を取り込むことで快適な空間を目指します。特に中学校周辺に流れる浅見川用水を建設計画に取り込むことで、パッシブデザインを鮮明にします。また、用水周辺にベンチや木陰をつくることで、夏に涼しい憩いの場とします。

■考え方

考える優先順位は以下の通りとする。

- ・優先1パッシブ ①外構：周辺環境を検討する。
- ・優先2パッシブ ②建物：建築の工夫をする。
- ・優先3アクティブ ①設備：高効率設備の検討をする。
- ・優先4アクティブ ②情報：管理、分析、研究する。

優先順位1～4を検討し施設のインシャルコスト、ランニングコストも考慮し快適な環境、空間を目指す。



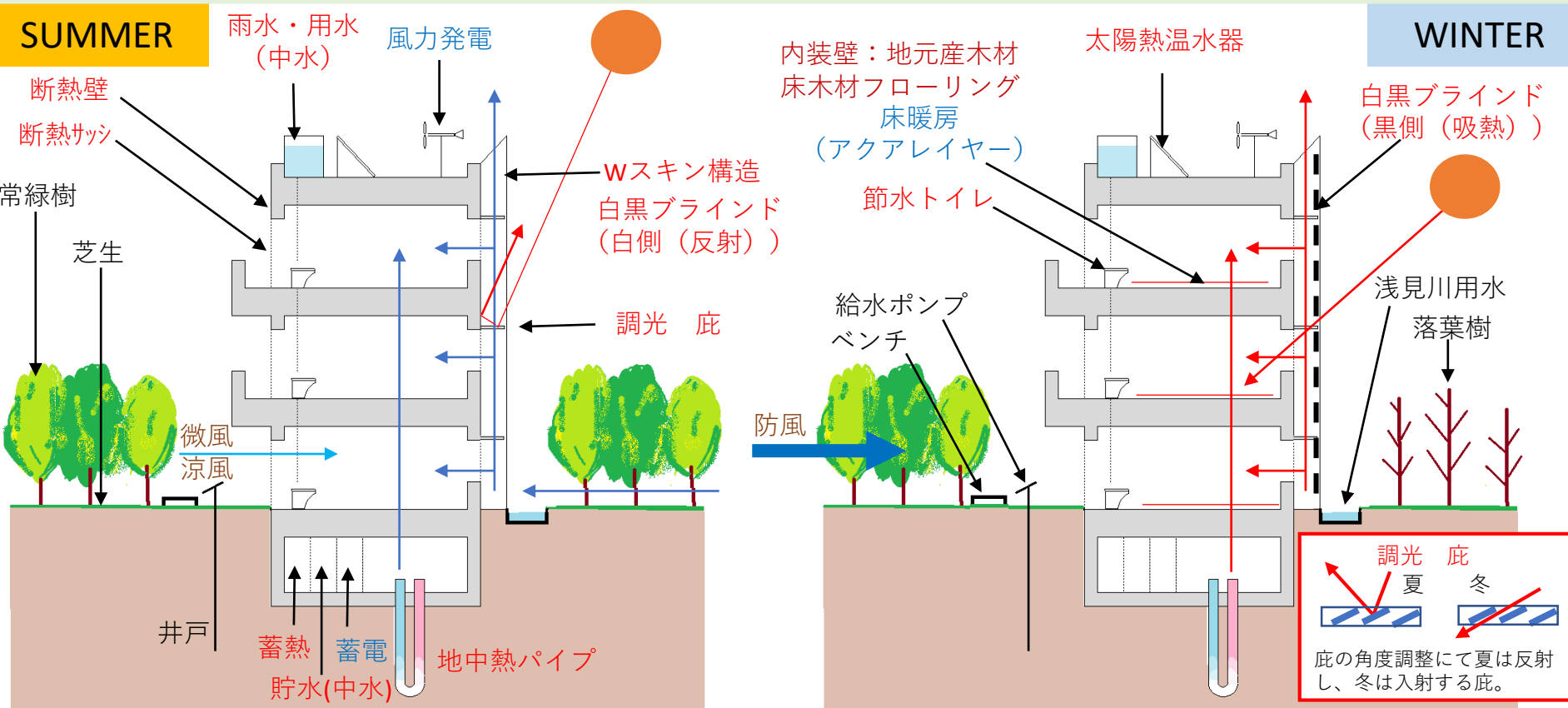
憩いの場 ベンチ (イメージ)

給水ポイント (イメージ)

給水 (イメージ)

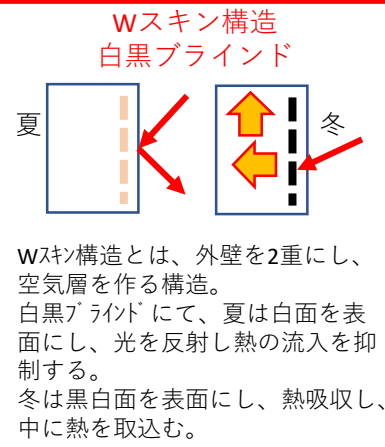
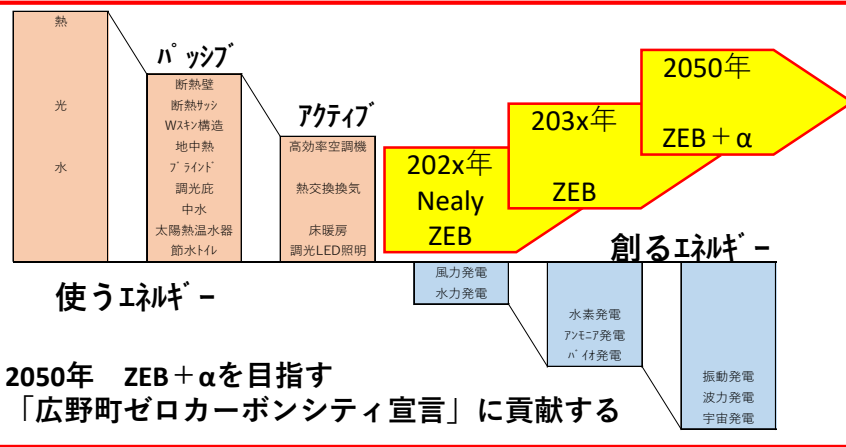
浅見川用水利用 (イメージ)

並木道 (イメージ)



- アクティブ設備
 - ・ 高効率空調機
 - ・ 熱交換換気
 - ・ 調光LED照明
- 将来導入検討
 - ・ 水力発電
 - ・ 水素発電
 - ・ アンモニア発電
 - ・ バイオ発電
 - ・ 振動発電
 - ・ 波力発電
 - ・ 宇宙発電
 - ・ ペロブスカイトPV

- 情報
 - ・ 温度センサー
 - ・ 湿度センサー
 - ・ 気流センサー
 - ・ 風速風向センサー
 - ・ 防犯センサー
 - ・ 防災管理システム (登下校・体調 他)
 - ・ 学校マネジメントシステム
 - ・ BEMS (ビルエネルギー・マネジメントシステム)



4：広野中学校について ④複合施設の機能

■複合施設 ⇒ 一般開放

- ・図書館・展示・室内遊び場
パブリックビューイング
(避難施設)

未来館との連携



■図書室 (イメージ)



■化石展示室 (イメージ)



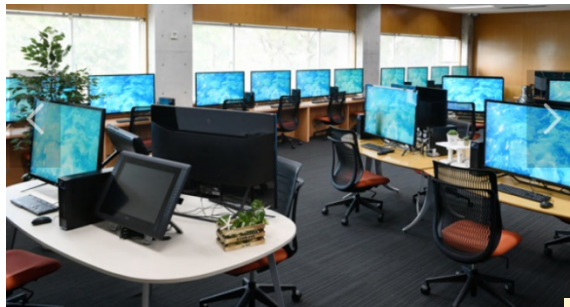
■子供室内遊戯室 (イメージ)

■共有域 ⇒ 一般開放

- ・部室
- ・プレゼンルーム
- ・会議室
- ・美術室
- ・ICTルーム
- ・音楽室



■美術室 (イメージ)



■ICT室 (イメージ)

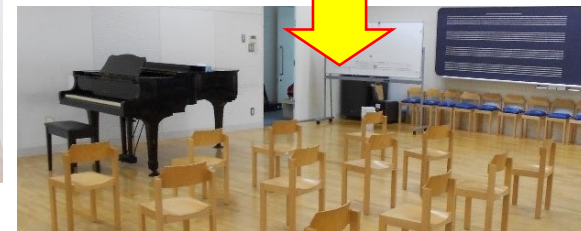


■プレゼンルーム (イメージ)

■中学校

- ・職員室・校長室
- ・教室 (各学年2クラス)
- ・保健室・ロッカーーム

※体育館改修 (断熱化)
※プール・テニスコートの屋内化



■音楽室 (イメージ)



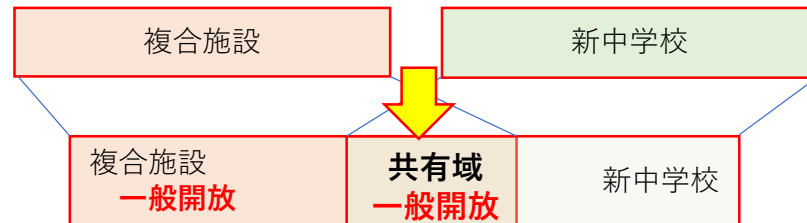
■一般教室 (イメージ) インタラクティブホワイトボード

- 他に
- ・考古学出土品展示
 - ・研究作業見学施設
 - ・デジタル遊び場
 - ・パブリックビューイング など



■災害時・避難所開設

効率的・機能的・有機的運営を目指す。



5：給食センターについて

- ① 建築計画
- ② 給食センター調理場導線計画
- ③ 食育対策・展示、見学の充実
- ④ タイムスケジュール



■建築計画

<土地利用計画>

■敷地条件

- ・候補地 A の利用可能面積は約 8 0 0 m²
 - ・候補地 B の利用可能面積は約 1, 5 0 0 m²、北側がけ地
- ※がけ地については敷地の利用可能面積に影響が出るので調査検討が必要

■検討条件

- ・人（児童）と車両との動線の分離
- ・食材搬入、給食搬送の効率性・安全性
- ・食育の観点
- ・見学時のアクセス
- ・接道
- ・駐車場

■候補地について

【候補地 A】

- ・人（児童）と車両との動線分離が容易、食材搬入・給食搬送が安全に行える。
- ・食育の観点では、校舎（小学校）に近く、連携が容易にできる。
- ・電気、給水の供給が車両動線に影響を受けずに行える。
- ・見学時のアクセスは最短で安全。
- ・体育館と近接している課題はあるものの、植栽等により対策可能。

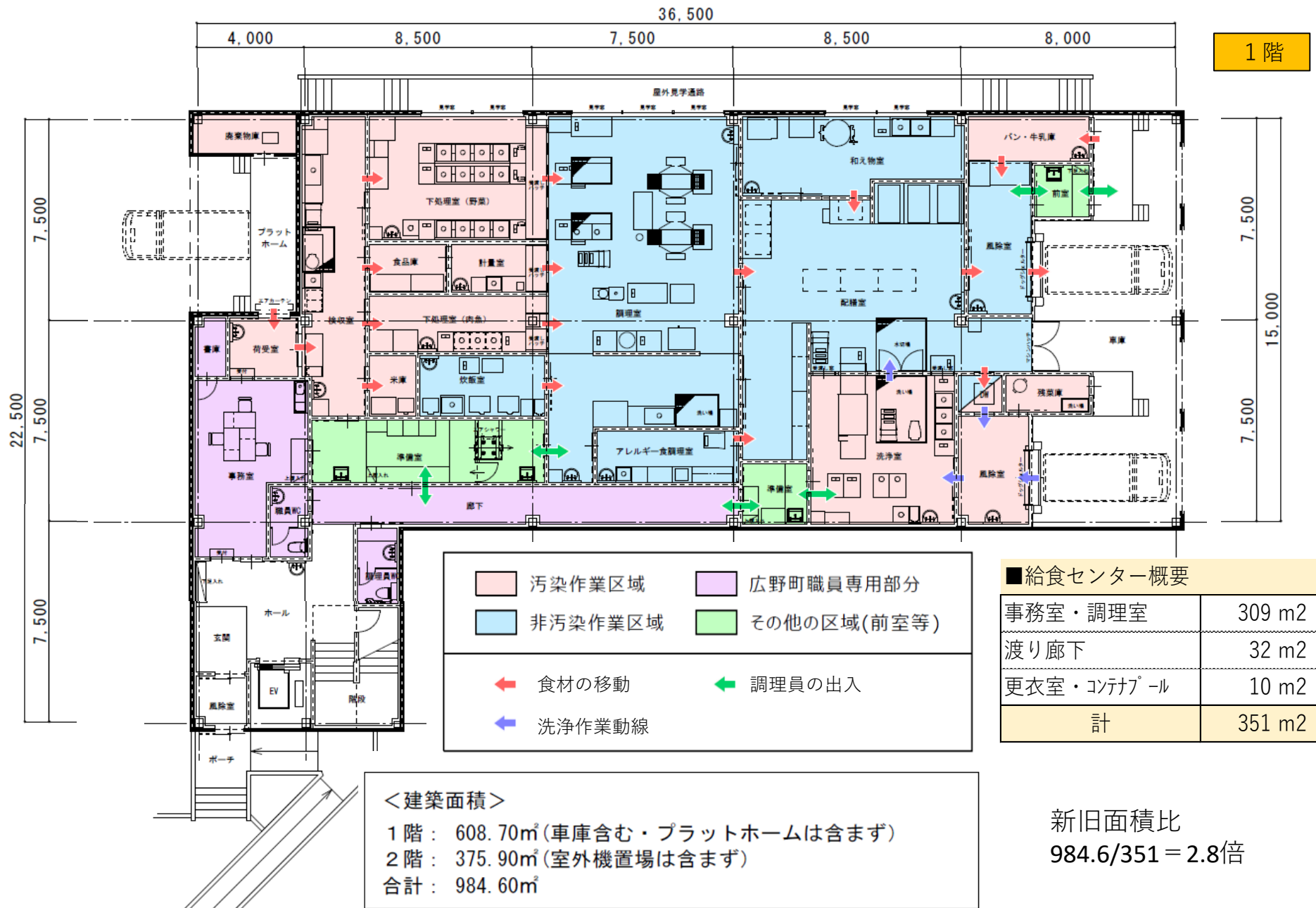
■候補地AB比較表

	候補地A	候補地B
人（児童）と車両との動線の分離	◎	○
食材の搬入搬出、給食の搬送	◎	△
食育の観点	◎	△
見学時のアクセス	◎	△
道路整備	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員用駐車場の検討が必要。 ・児童送迎のためのロータリーが必要。 	
安全	<ul style="list-style-type: none"> ・車歩分離の徹底が必要。（交通） ・門扉、施錠の検討（防犯） 	

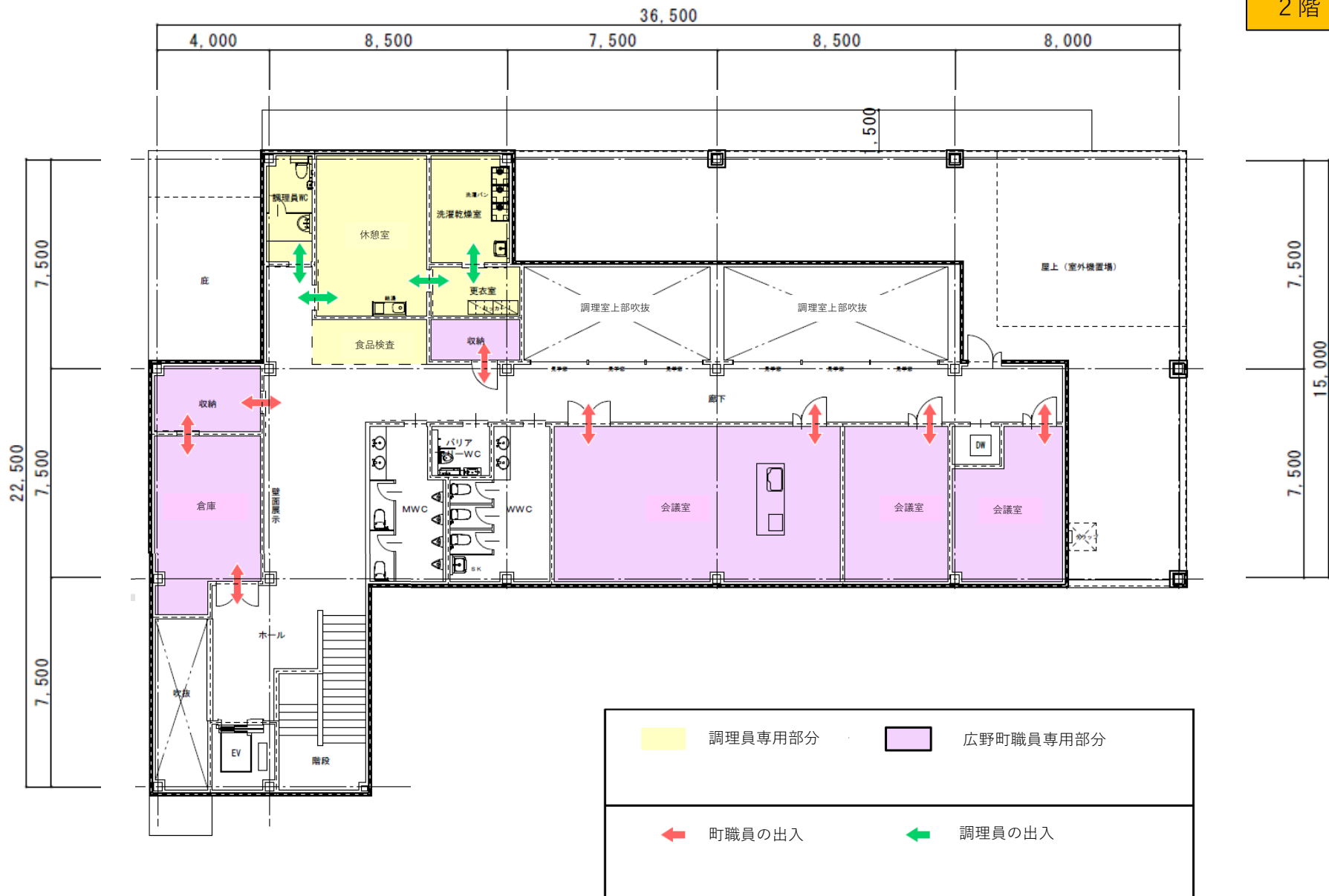
上記比較から、候補地 A を選定。

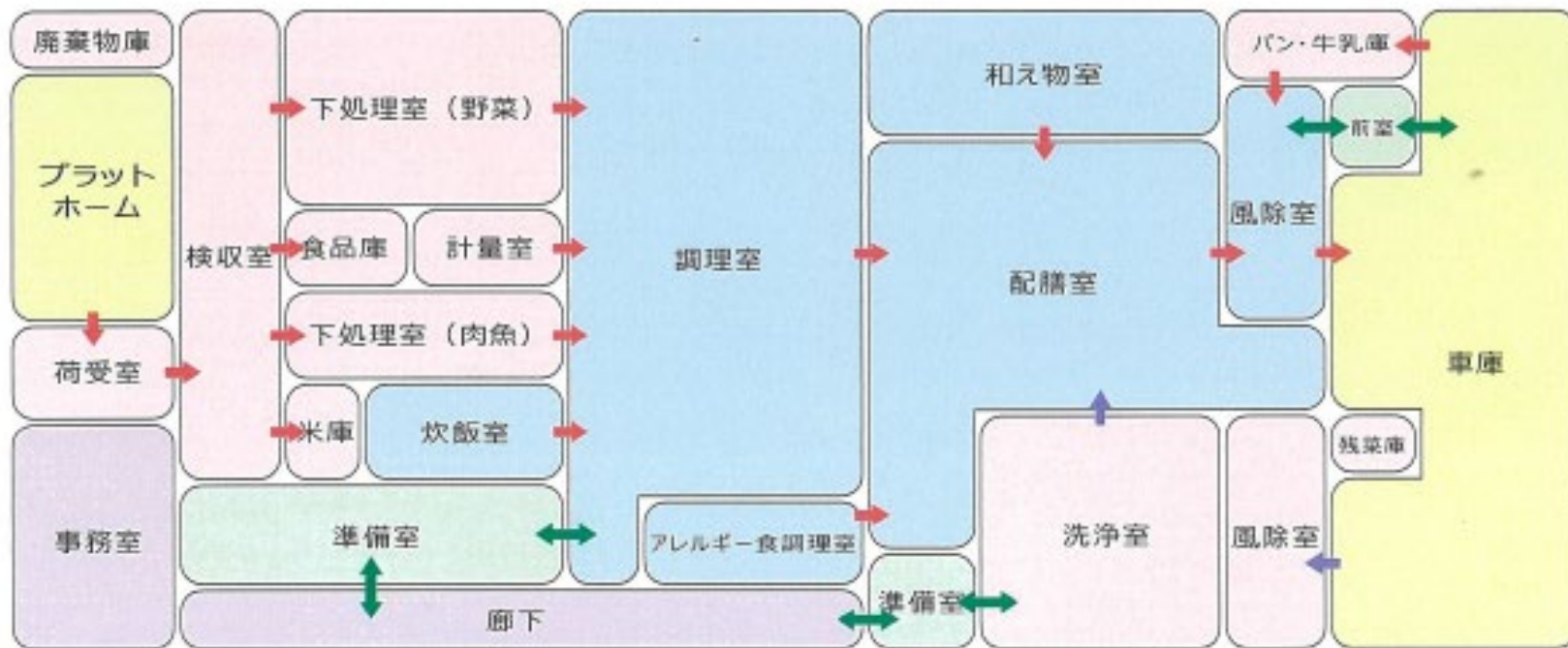
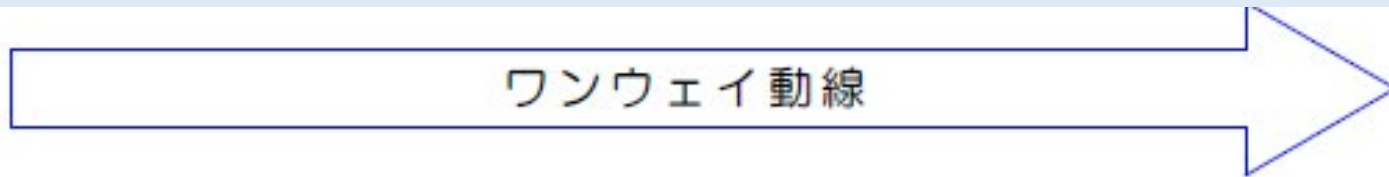






2階





学校における食育だけではなく、地域に向けた発信・啓発も含めた食育の推進を図っていくため、見学通路や展示企画の充実を計画します。

■広野町学校給食共同調理場 見学・展示企画（案）

■パネル展示①

- ・ 広野町給食センターの取組紹介
- ・ 給食だより（地場産物）
- ・ アレルギー対策
- ・ 施設紹介

■パネル展示②

- ・ 過去の献立
- ・ 過去と現在の食器
- ・ 給食の歴史



給食だよりの展示やフードモデルを使用した栄養指導サンプルの展示



昭和39年の学校給食
揚げパン・ミルク（脱脂粉乳）・おでん



昭和44年の学校給食
ミートスパゲッティ・牛乳・フレンチサラダ・プリン



先割れスプーン
アルマイト製食器

■企画案（保護者他外部向け）

- ・ 保護者への給食試食会
- ・ 見学コース案内

■企画案（児童生徒向け）

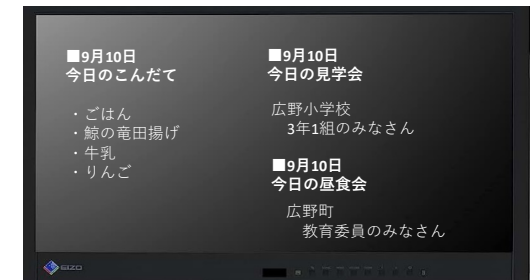
- ・ 調理見学
- ・ 給食センターでの食育授業



見学コースイメージ

■モニター表示

- ・ 本日の献立
- ・ 献立詳細



6：今後の進め方について

- ①小学校
- ②中学校
- ③給食センター

6：今後の進め方について

①小学校について：

- ・令和5年度中に「**大規模修繕設計業務委託**」を発注します。
- ・「**大規模修繕設計業務委託**」の成果を基に「**修繕検討委員会**（R6.5～R6.7）」を開催し、修繕内容を精査した上で、令和6年度より修繕工事を実施します。

※大規模修繕工事は仮校舎を使わず、学校の休日を使って実施し、3年程度に工期を分割、完了を目指します。

②中学校について：

- ・令和6年度に学識経験者や専門委員を交えた「**基本構想検討委員会**」を発足します。
- ・令和8年度に基本設計、令和9年度に実施設計を経て、令和10～11年度に建設工事を目指します。

※「**基本構想検討委員会**」は実現の可能性について精査しつつ、先進的技術要素を追求し、コストも考慮した上で、実現に近づけるため検討要素の洗い出しと深堀を行い、複合施設を含めた中学校の建替え計画を実現するための委員会とします。「基本構想検討委員会」の成果品から「基本設計」、「実施設計」へ進めます。

③給食センターについて：

- ・令和4年度に**基本設計完了**。
- ・令和5年度に**実施設計発注済**。
- 「**食育展示検討委員会**」（**新給食センター食育推進スペース検討委員会（仮称）**）を設置。

給食センターの見学や展示等について検討します。

- ・令和6年度に**建設に着手**し、令和7年2学期からの給食提供を目指します。

※「**食育展示検討委員会**」は給食センターが単に児童生徒の食事提供に留めず、食育の拠点として未来につなぐ食育を積極的に推進するため、また食に関する情報提供、食を介してのコミュニケーションツールとなるため、見学者への説明内容や展示の充実を検討します。

以上、本報告書は「広野町教育施設ランドデザイン」としてまとめました。

実行可能なものから現時点では、技術確立が出来ていない、コストが高いなど、すぐに実行できないものまで含まれています。今後、実施できるもの、できないものを精査して行きます。

今すぐできないものは、テーマストックとし、今後の情報を注視すること、特に中学校の基本構想委員会等に参加戴く小中学生の方々には、将来に渡ってストックテーマの醸成に期待します。

おわりに

「教育環境グランドデザイン検討委員会」は、「グランドデザインとは理想を追求すること」を共通認識とし、広野町の教育施設エリアのあるべき姿を追求し、その思いを本報告書にまとめました。

本報告書における広野町の教育施設エリア全体構想は、自然の光・水・風・緑などの自然エネルギーを積極的に取り込む「パッシブデザイン」の考えを主体に描きました。当該エリアを、パッシブデザインを主体とする環境に配慮した空間と教育施設から構成し、再生可能エネルギーの効率的な利用促進を促し、建物施設内部と屋外空間の快適性を創出することにより、児童生徒だけでなく住民にとっても憩いの場として活用できるエリアとなることを目指します。

教育施設エリア全体をパッシブデザインでまとめることは、「広野町ゼロカーボンシティ宣言」への貢献にもつながります。

教育施設エリアに、心地よい自然の光・水・風・緑などを取り込むことで、子供たちや住民が自然と触れ合い、交流する場となり、さらに、住民の憩いの場にもなり、誰もが楽しめる快適な空間となります。

教育の場としてだけでなく、コミュニティの場としても機能する重要な場として住民が集まり、交流し、学び合える場として、教育施設エリアを提供することを目指します。

また、教育施設エリアにいる多くの人々の目が子供たちの安全、安心を生みます。

教育環境グランドデザインの結論として、住民に開放された憩いの場となるエリアを創造することは、地域の発展にも寄与します。

今後、この広野町教育環境グランドデザインを実現するために、関係者や住民の声を反映しながら、具体的な計画の実施に向けた協力が求められます。持続可能な教育環境を実現するため、施設運営の方針や長期的な維持管理計画が重要となります。

また、教育施設エリアのあるべき姿を追求することは、施設が完成して終わりではなく、完成した所から始まります。常にあるべき姿を模索し、醸成し、進化、継続することで理想に近づける努力が必要です。

広野町教育環境グランドデザインで描いた教育施設エリア構想の実現は、広野町の教育の質を高めるだけでなく、住民の生活の質をも向上させることにつながり、かつ、子供たちが快適に過ごし、育ち、学び、住民との交流もできるエリアとして地域の魅力を高め、将来の世代に貴重な存在となるものと確信します。

参考文献

- ・環境共生住宅早わかり設計ガイド（戸建住宅編） （一社）環境共生住宅推進協議会 創樹社
- ・環境共生住宅早わかり設計ガイド（集合住宅編） （一社）環境共生住宅推進協議会 創樹社
- ・プレデザインの思想 小野田 泰明 著 TOTO出版
- ・環境シミュレーション 建築デザイン 実践ガイドブック 川島 範久 著 彰国社

広野町教育環境グランドデザイン 報告書編

発行者 広野町教育環境グランドデザイン検討委員会
福島県双葉郡広野町大字下北迫字苗代替35

令和5年10月2日 第2版 発行